

県政

だより

あ 新

きたた 時代

新しい計画にあなたの声を	2
秋田県立大学開学	4
TOPICS北から南から	6
登場 秋田の元気人	7
あきた遊・学アラカルト	7
春夏秋冬こぼれ話	7
秋田県からのお知らせ	8



'99年度 vol.3

平成11年6月25日発行(第45号)

【全戸配布広報紙】

編集・発行 / 秋田県広報課
〒010-8570 秋田市山王四丁目1番1号

TEL018-860-1073

「県政だより」は県内全世帯にお届けしています。ご近所で未着の方がございましたら、市町村広報担当課または県広報課までお知らせください。

ご感想をお寄せください。

秋田って・・・

新しい計画にあなたの声を！！

秋田には、たくさんいいところがあるネ。
十和田湖や田沢湖、鳥海山や男鹿半島、それに白神山地のブナの森が世界遺産になっているヨ。

研究施設もすごいヨ、世界レベルの技術開発、食品や木材を加工するトップクラスの研究が進んでいるんだって。県立大学もできたと楽しみだネ。

竿燈や花火には県外からも人が集まるし、かまくら、犬っこまつり、アモッコ市など冬も楽しいお祭りがたくさん。それに食べ物もおいしいわ。

秋田港には大きなフェリーが来るヨ、韓国や中国にはコンテナで大きな荷物を運べるし、何か日本海がにぎやかになってきているネ。

インターネットで世界が近くなっているし、地球はひとつだネ。ところで、これからお年寄りが増えていくんだって。

元気なお年寄りは、知恵の玉手箱だから楽しい社会がくれるわ。でも、子どもが少なくなっているのはちょっとさびしいけど...

新世紀「遊・学3000」ビジョン

県では、今年度、21世紀の県政の指針となる新しい総合計画をつくります。このたび、計画の策定に先立ち、秋田がめざす方向を県民の皆様と一緒に考えるため、「時と豊かに暮らす秋田～新世紀『遊・学3000』ビジョン～」をとりまとめました。ビジョンのあらましを紹介しますので、皆様のご意見やご提言をお寄せください。皆様の声は新しい計画づくりに反映していきます。

大事にしたい4つの考え

新しい秋田づくりの視点

新世紀においては、人口の減少や少子化・高齢化、県内産業の競争力の強化といった課題に的確に対処しながら秋田の可能性を開花させ、みんなが誇りをもって生涯を心豊かに暮らせる秋田づくりが求められています。



なんといっても安全・安心だね

・少子・高齢社会に対応した福祉、医療、防災等に対する社会システムの充実が必要です。



美しい環境を守ることや経済の発展は欠かせません

・資源を節約し環境にやさしい社会をつくる必要があります。
・企業の競争力強化や若者に魅力のある雇用の創出などにより、地域を活性化させることが重要です。



みんなが力を
合わせます

・成熟社会では、一人ひとりの主体的な行動と、ボランティア、企業、行政などが、それぞれ役割分担しながら、地域づくりを進めることが大切です。

「遊・学3000」
自由時間の
活用を
提案します



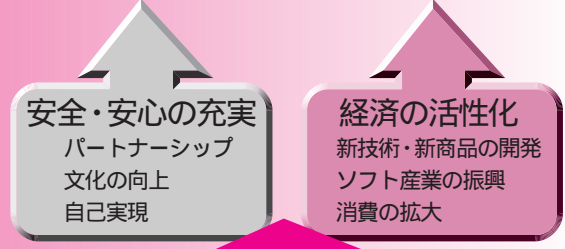
・新しい秋田には柔軟な発想や秋田の可能性を切り拓く戦略的な視点が必要です。

・1年間の生活時間の中で、睡眠や食事などの基礎時間、学業や仕事などの時間を除いて、およそ3000時間の自由に使える時間があります。

・この3000時間はスポーツやボランティア、生涯学習などの「遊」や「学」に使うことができます。

・「遊」や「学」は、楽しみと交流、個性と創造力をはぐくみ、生活の安全・安心を充実させるとともに、経済の活性化を通じて社会の活力を高めます。

新しい秋田



個性と創造力 楽しみと交流



めざす社会は「時と豊かに暮らす秋田」です！

「時と豊かに暮らす秋田」では、美しい環境のもとで各々の世代が豊かさを実感でき、生き生きと活躍しています。

安全・安心に楽しく暮らす秋田

- ・安心して活躍できる長寿社会
- ・安心して子どもを産み育てられる社会
- ・若者の声がはずむ地域づくり
- ・安全で快適に暮らせる地域社会
- ・県民文化・スポーツの創造

環境と共に生きる秋田

- ・自然と人との共生
- ・環境にやさしい地域づくり
- ・資源循環型社会の形成
- ・地球環境の保全と国際協力

お互いの個を大切にする秋田

- ・個性や創造力をはぐくむ学校教育の充実
- ・生涯学習の場と機会の提供
- ・起業家の育成、産業を支える人づくり
- ・国際化と情報化を進める人づくり

産業が力強く前進する秋田

- ・科学技術の振興など技術力の強化
- ・産業の情報化と新産業の創出支援
- ・農林水産業の新たな展開
- ・観光産業の振興
- ・経済交流と貿易の拡大
- ・雇用の安定と能力開発の推進

地域が活発に交流・連携する秋田

- ・高速交通体系の整備
- ・環日本海交流東北拠点の形成
- ・秋田情報ハイウェイ構想の推進
- ・都市と農山村の交流促進

ビジョンは「美の国秋田ネット」に掲載しております。ホームページのアドレスは <http://www.pref.akita.jp/> 皆様のご意見をお待ちしています...秋田県企画調整部総合政策課 FAX 018-860-3873 Eメール seisaku@pref.akita.jp

次代を担う人材の育成と
地域の発展への貢献を目指して

秋田県立大学開学

秋田市と本荘市にキャンパスを構える『秋田県立大学』。今年4月に開学してから2か月あまりが過ぎ、キャンパスには、全国各地から集まった一期生たちの活気があふれています。

県立大学の学部・学科、特色などをご紹介します。



本荘キャンパス

システム科学技術学部

情報とハイテクを統合する「システム思考」で、次世代の「モノづくり」を創造します。

現在、日々生み出されている製品には、多彩な先端技術が反映されており、ひとつの学問や技術だけでの新しい「モノづくり」は困難になっています。

そのため、「システム科学技術学部」では、専攻以外の分野にも基本的な知識を持ち、多様な技術を体系的にとらえ統合していくことができる「システム思考」の能力を養成します。

新しい「モノづくり」のために、「科学と技術の一体性」を理解し、科学的知識を十分習得した上で、実際に「モノ」を製作する等の実習を重視する教育を行います。

本荘由利地区の先進的な電気機械関連企業や、県内の研究機関との交流を図り、インターンシップ（企業などでの就業体験）を実施するなど、実践的な体験・研究を行います。

【カフェテリア】円形、ガラス張りで明るい雰囲気のカフェテリアは、学生たちのいこいの場。320席



大きな夢に向かって

学長 鈴木昭憲

4月14日の入学式を終えて2か月余り。振り返ってみると、まずは順調なスタートを切ることができたと思っています。

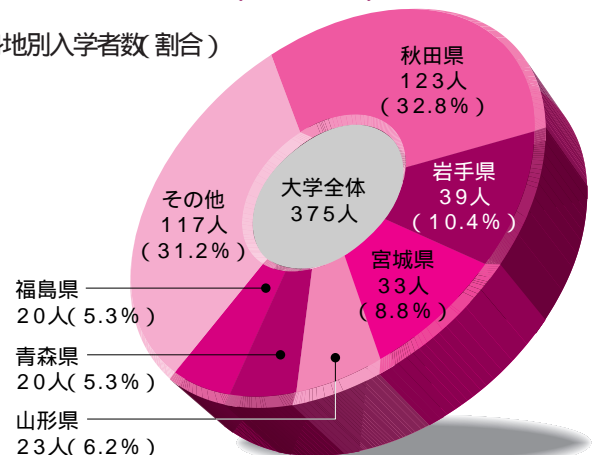
本学は、21世紀を担う人材の育成と、地域の大学として本県の持続的発展に貢献することをその理念に掲げて開学しました。現在は、学生に対する講義を優先して動いていますが、今後は研究体制の整備に力を注ぐとともに、地元産業界との連携、公開講座の開催などを通じて、地域貢献に積極的に取り組んでいきたいと考えています。さらには、本学を拠点として科学技術に関する世界の情報を受信し、県内に提供するとともに、秋田の情報を全国に、そして世界に向けて発信したいと考えています。

県民の皆さんの夢の結晶である秋田県立大学に、学生と我々教職員の力を合わせ、大きな夢を映していきたいと思ひます。

4つの学科

- 機械知能システム学科（入学者80人）
- 電子情報システム学科（入学者88人）
- 建築環境システム学科（入学者44人）
- 経営システム工学科（入学者43人）

出身地別入学者数（割合）



秋田キャンパス

生物資源科学部

最新テクノロジーで人と生物資源との「共生」の新たな可能性を探求します。

「生物資源科学部」では、バイオテクノロジーなど先端技術を駆使して、食糧・エネルギー・環境問題にアプローチしていきます。

そのため、総合的な視点から人間と生物資源の関わりをとらえ、各分野の専門知識、技術を統合しながら課題を解決していく能力を養成します。

生物資源の生理・生態を踏まえ、食糧としての生物生産から、生産物の加工利用、廃棄・再生まで、生物資源についての総合的な教育・研究を行います。

農業の関連団体や諸研究機関との交流を図り、実際に研究や技術開発の現場を体験し、実社会で応用できる力を養う実践的な教育を行います。



【講堂】座席は階段状に配置され、天井は「ふきのとう」をイメージした形。653人収容。

3つの学科

- 応用生物科学科（入学者43人）
- 生物生産科学科（入学者44人）
- 生物環境科学科（入学者33人）

ここに注目!
県立大学

「開かれた大学」の窓口

リエゾンオフィス

大学と県民のみなさんとの交流・連携の窓口として、県立大学では、「リエゾンオフィス」を設置しています。

リエゾン (liaison) .. 連絡、連携。料理の「つなぎ」の意味にも使われます。

*活動内容

県民のみなさんに向けて...

公開講座や体験入学などを行い、大学を県民のみなさんに知ってもらいます。

企業や研究機関に向けて...

共同研究等を推進するため、企業ニーズや大学の研究内容などの情報を交換します。

そのほかに...

大学での研究内容、結果の紹介や図書館などの施設開放を行います。

*これからの行事予定

『キャンパス見学会』

夏休み（8月上旬予定）に高校生や父母を対象にしたキャンパス見学会を実施します。大学教員による講演会なども併せて行います。

問い合わせ先 県立大学事務局教務学生課 TEL018-872-1526

あんな声 こんな声



ヤマビルの防除について

以前はヤマビルの被害は奥地の方だけでしたが、今では集落まで広がり困っています。何か対策はないでしょうか。（「県政モニター会議」より）

⇒ 答：ヤマビルの被害対策としては、現在、防除用薬剤の散布が行われています。県ではその費用のうち薬剤費分の6割を地元市町村に助成しています。また、薬剤以外の防除対策について、県立大学短期大学部が研究を進めています。

おもてなしの心について

県内のお店などで「いらっしゃいませ」の言葉もない「買うなら買え」という接客態度に驚きました。今後、観光の振興を図っていくためには、県の指導が必要ではないかと思えます。（「県政モニター会議」より）

⇒ 答：観光客の方々を快く迎え入れるため、県では「秋田花まるっスマイルアップキャンペーン」を実施しています。その一環として、昨年度は接客に携わる方々を対象に「接遇リーダー養成講座」や「接遇基礎・応用講座」を開催しました。今後、さらに接遇サービス向上のための事業を実施していきたいと考えています。

水田を耕作してくれる農業者の育成について

高齢のため、中山間地の水田を耕作し続けるのがつづなくなってきました。水田を耕作してくれる農業者の育成をお願いします。（「知事への手紙」より）

⇒ 答：県では、ほ場整備事業等による生産条件の整備、施設・機械の導入や農作業受委託への助成などにより、担い手となる農業者の育成に努めています。また、国では、平成12年度から中山間地域の耕作放棄を防止するため、こうした担い手に直接助成金を支払う制度を実施することとしています。

TOPICS

北から南から

豊かな緑で うるおいのある生活を

「育てよう地球の命と未来を夢に」をテーマに5月13日、第50回秋田県植樹祭が東由利町で開催され、緑の少年団や林業関係者など約1,500人が参加しました。

秋田県植樹祭は、緑化推進のために昭和25年から毎年開催されているもので、会場の「八塩いこいの森」には、八重桜など500本が記念植樹されました。



「秋田内陸縦貫鉄道」 全線開業10周年

鷹巣 角館間94.2^{km}を結ぶ「秋田内陸縦貫鉄道」の全線開業10周年を祝う記念式典が、5月14日に阿仁町で開かれ、周辺市町村の関係者など約100人が出席しました。

式典では内陸線の利用促進とイメージアップに貢献した「秋田内陸リゾートカップ100^{km}チャレンジマラソン大会」の実行委員や、駅の清掃や環境美化に貢献した皆さんに感謝状が贈られました。

秋田内陸線は、平成元年4月の全線開業以来、沿線地域の生活や観光に大きな役割を果たしています。



県民防災の日

「県民防災の日」の5月26日、県内50市町村で防災訓練が行われ、16年前のこの日、日本海中部地震で大きな被害を受けた能代市では、マグニチュード7.7の地震が発生したとの想定で訓練が行われました。

地域住民のバケツリレーによる初期消火訓練や能代地区消防署による事故車両救出訓練、東北電力能代営業所による電力施設復旧訓練などさまざまな訓練が行われ、参加者は真剣な表情で訓練に取り組んでいました。



「温泉の臭いはつかないですか?」と聞くところ、おらほの湯「こだは大丈夫だんす」と言う。小安峽温泉の泉質は、含芒硝食塩水で無色透明の無味無臭。しかも源泉の温度は九十八度近くもある。温泉に入れた後は冷たい水の流れる沢に入れてさらす。「こうすればアクもすっきり抜け、何年保存しても汁は濁らねすな」とこ主人は温泉と沢水の効用を強調する。

タケノコ採りの帰りは、人もタケノコも温泉に入る。これが皆瀬村の流儀だ。

くるところで熱い温泉に入れ、さましてから皮むき作業にとりかかる。

「タケノコは折っても生きてるんだ。だがら湯っこに入れて殺してしまふ。こうせば固くもならねし、皮もむきやすくなる。それにエグミも出ねんだ」と地元の人たちは言う。

皆瀬村大湯の阿部旅館のこ主人はシーズン中は毎日のように山に入る。「採ってきたその日に生のまま料理するのが一番だども、缶詰め用はできるだけ早く湯っこに入れるすな」とこ主人。



登場

秋田の元気人

増田町

りんごっこ工房(会員5人、代表 泉谷美津子さん)

平鹿りんごの主産地として知られる増田町で、りんご栽培農家の主婦たちのグループ「りんごっこ工房」のお菓子が評判を集めています。

「りんごっこ工房」が結成されたのは5年前。りんごの良さを多くの人に知ってもらおうと、りんごを使ったお菓子づくりに取り組んでいます。りんごをくり抜いて餅などを詰めた「わくわくアップル」やりんごの中に餅米を入れてふかした「りんご乙女」などこれまでに15種類のお菓子を作りました。

このうち、りんごと小豆を練り合わせたあんこを入れたお焼きの表面にりんごのマークを焼き印し、笹の葉で包んだ「笹ぼっち」が昨年12月の「秘蔵っ子米粉料理コンテスト」で最優秀賞(秋田県知事賞)を受賞しました。

毎月最終日曜日に町の温泉「ゆ〜らく」でこれらのお菓子を販売していますが、早朝に作った200個あまりのお菓子は、いつも1時間足らずで売り切れてしまうとか。

増田町では2人しかいないという女性農業士でもある代表者の泉谷美津子さんは、「お菓子づくりが忙しくなってきた農業との両立が課題です。欲張らずに両方のバランスをとりながらグループ活動を続け、次の世代に継承していきたいと思います」と抱負を語ってくれました。

りんごに懸ける愛情がお菓子づくりのアイデアを生む。「りんごっこ工房」の5人の話題は尽きません。



(左から)武藤チャヤ子さん
石川久仁子さん
石川満子さん
泉谷美津子さん
石川キヤさん



りんごお焼き「笹ぼっち」

あきた遊・学
アラカルト

もり
森林を
体験して
みませんか!

この夏、グリーンシャワーを全身に浴びながら、小鳥がさえずり虫や小さな生き物たちが生命をはくむ森林を体験してみませんか?



森の案内人と春の樹木観察

森林学習交流館では、森林の動植物に関する専門知識はもちろん、森林のことなら何でも知っている「森の案内人」を紹介しています。



シタケの植菌体験

県の資格認定を受けた「森の案内人」は県内各地に60人おり、皆さまの活動目的に合わせて県内どこへでも派遣しています。派遣については学校やサークル等の団体を原則としますが、個人でも体験希望者が5人以上の場合は派遣することができます。

詳しいことは申込先にお問い合わせください。

申込先:秋田県森林学習交流館(ブラザクリプトン)
〒019-2611河辺郡河辺町戸島字上祭沢38-4
TEL 018-882-5009
FAX 018-882-4821

7月26~27日に森林学習交流館で1泊2日の「夏休み親子森林教室」を実施します。夏の樹木観察や木でつくる回子三兄弟など「森の案内人」と楽しく森林を学びましょう。

お申込みは7月10日まで、参加費は親子2人で1万円です。

秋田データあれこれ

昨年一年間の 田沢湖
県内の降水量 = 3.5杯分

昨年一年間の県内の降水量は、2142.0^{mm}。その容積は約25立方^m。これは田沢湖の水量(7.20立方^m)の約3.5倍になります。面積比では、県土のわずか450分の1あまりの田沢湖。しかし、さすが水深日本一の湖(423.4^m)その深さを実感します。県総面積 11,612平方^m、田沢湖面積 25.8平方^m (情報提供:秋田地方気象台、田沢湖町)

春夏秋冬 こぼれ話

文 小西一三 絵 小西由紀子

シリーズ3 タケノコ採りの帰りは人もタケノコも温泉に入る

ヤブをこいで探し回り、あちこちから顔を出しているタケノコを見つけた時の感激、根元からポキッ、ポキッと折る時のあの感觸、帰る時の肩にずしと食い込む重量感。だから人はタケノコ採りに熱中する。ふーふー言いながら自宅に持ち帰っても、休む間もなく皮むきの作業が待っている。これがタケノコ採りのつらいところだ。できるだけ新鮮なうちに処理しないと根元から次第に固くなり、しかもエグミが出てくる。大量に持ち帰った時はそれこそ家族総動員だ。

小安峡温泉で有名な皆瀬村では、缶詰めなど加工用のタケノコは山から降りて

珍しうか? あらほの村でたけのこ
昔からタケノコを温泉に
いれでるス。



入浴
時間は...
3分から
5分位だ。

秋 田 県 か ら の お 知 ら せ

県保健衛生課からのお知らせ～ ポリオワクチンの追加接種について

厚生省の調査により、昭和50年から52年までに生まれた方はポリオワクチンを接種したにもかかわらず、免疫を保有している方の割合が他の年齢層に比べて低いことがわかっています。

この年齢層の方は、

ポリオウイルス常在国に渡航するとき

お子さまがポリオ予防接種を受けるとき

に再度ポリオワクチンの予防接種を受けられることをお勧めします。

問い合わせ先 最寄りの保健所

平成11年度秋田県調理師試験を実施します

試験日時 8月24日(火)午後1時30分～3時30分

試験会場 秋田経済法科大学(秋田市下北手)

願書の配布期間 6月15日(火)～7月12日(月)

願書の受付期間 7月1日(木)～7月12日(月)

願書の配布および問い合わせ先 最寄りの保健所

NPO法人申請書類の縦覧を行っています

特定非営利活動促進法(NPO法)は、ボランティア団体等の民間非営利組織(NPO)を法人化することで、組織としての基盤づくりを支援するため制定されました。県では法人化の申請内容を広く一般に公開しています。

アドレス <http://www.pref.akita.jp/seikatu/bukka/ca030.htm>

問い合わせ先 県県民生活課 TEL018-860-1520

職場総合美術展の作品を募集します

県内の勤労者で、アマチュアの方の作品を募集します。

部門 日本画、洋画、書道、写真、工芸、デザイン

募集期間 8月23日(月)～9月30日(木)

展示期間 10月23日(土)～10月28日(木)

展示会場 県立美術館美術ホール

問い合わせ先 県労政課 TEL018-860-2302

宅地建物取引主任者資格試験を実施します

試験日 10月17日(日)

受験資格 県内在住の方に限ります

願書の配布期間 7月5日(月)～7月30日(金)

願書の受付期間 7月26日(月)～7月30日(金)

受験手数料 7,000円

願書の配布および問い合わせ先 (社)秋田県宅地建物取引業協会

TEL018-865-1671

平成11年度秋田県青年リーダー国内研修を開催します

全国の青年との交流を通して青年の役割や活動のあり方を探り、あわせて各地の文化・産業についての視野を広めます。

開催日 事前研修および本研修 10月(本研修は北海道各地で5泊6日)

事後研修 11月

募集人員 6人(県北、中央、県南各2人)

問い合わせ先 県青少年交流センター TEL018-880-2301

「めざせ日本海！米代川下りふるさと探検隊」の参加者を募集します

米代川をいかだで川下りしながら、自然のすばらしさ、環境保全の大切さを体験してみませんか。

開催日 8月4日(水)～8日(日)までの4泊5日

場所 大館少年自然の家および米代川、能代市落合浜

募集人員 県内の小学5年生～中学2年生までの50人

問い合わせ先 県大館少年自然の家 TEL0186-43-3174

古文書解読講座を開催します

開催日時 8月3日(火)・4日(水) 午前10時～午後3時

(両日とも同じ内容・定員各40人)

場所 県公文書館 3階多目的ホール

申込方法 往復はがきに住所・氏名・電話番号・希望日を明記

申込締め切り 7月16日(金)

申込および問い合わせ先 〒010-0952秋田市山王新町14-31

県公文書館古文書課 TEL018-866-8301

平成11年度秋田地区ユースアクションセミナー

県立大学の教員が講師となってディスカッション形式のセミナーを行います。

開催日時 8月5日(木)午後1時～3時 場所 客船「飛鳥」船尾デッキ

テーマ 「環境問題」 募集人員 県内の若者200人

申込締め切り 7月15日(木)

問い合わせ先 県秋田地方部県民生活課 TEL018-860-3319

県立プールが6月20日(日)オープンします

利用時間 1回目午前9時～午後1時15分 2回目午後1時45分～6時

利用料金 一般340円 高校・大学生220円 小・中学生100円 幼児50円

県立プールで開催するスポーツ振興事業団主催教室のご案内

「いざという時のために…着衣水泳教室」

開催日時 7月20日(火)午前10時～12時 参加対象 中学生以上

「お母さんといっしょに水で遊ぼう！母と子の水泳教室」

開催日時 7月29日(木)～8月4日(水)のうち5日間の午前10時～11時30分

参加対象 子ども(満2～4歳児)と母親

問い合わせ先 県スポーツ振興事業団 TEL018-862-3782

ワールドゲームズ公式競技の世界選手権が開催されます

日本クラス別ポディビル選手権大会

開催日 7月25日(日) 会場 秋田市文化会館

問い合わせ先 秋田県ポディビル連盟 TEL018-865-1731

全日本ローラーホッケー選手権大会・全日本女子ローラーホッケー選手権大会

開催日 7月29日(木)～8月1日(日) 会場 県立スケート場

問い合わせ先 秋田県ローラースケート連盟 TEL018-839-4943

秋田ワールドゲームズ(WG)2001組織委員会のホームページがリニューアルされました。WGの最新情報にアクセスしてみてください。

アドレス <http://www.wg2001.or.jp>

問い合わせ先 県ワールドゲームズ推進室 TEL018-860-2001

県 政 ガ イ ド

ラジオ 県庁だより ABS 11:45～11:50(月～金)
モーニングスマイル エフエム秋田 8:30～8:55(毎週土曜日)

テレビ テレビ県民室 ABS 11:00～11:15(毎週日曜日)
秋田花まるっ AKT 21:54～22:00(毎週月曜日)
あきた東西南北 AAB 9:30～9:45(毎週土曜日)

美の国秋田ネット URL <http://www.pref.akita.jp/>

表紙の写真

江戸時代からの製法が守り続けられている稲川町の特産品「稲庭うどん」家業のうどんづくりを受け継いでいる佐藤信光さん(32)は、「小麦粉で作られる生地はその日の天気や季節によって伸びが違い、まるで生きているようです。安全で良質な小麦粉の確保にこだわっていきいたい」と伝統のうどんづくりへの意気込みを語ってくれました。



県人口 1,196,467人
男 567,985人
女 628,482人

世帯数 388,085世帯
(平成11年5月1日現在)